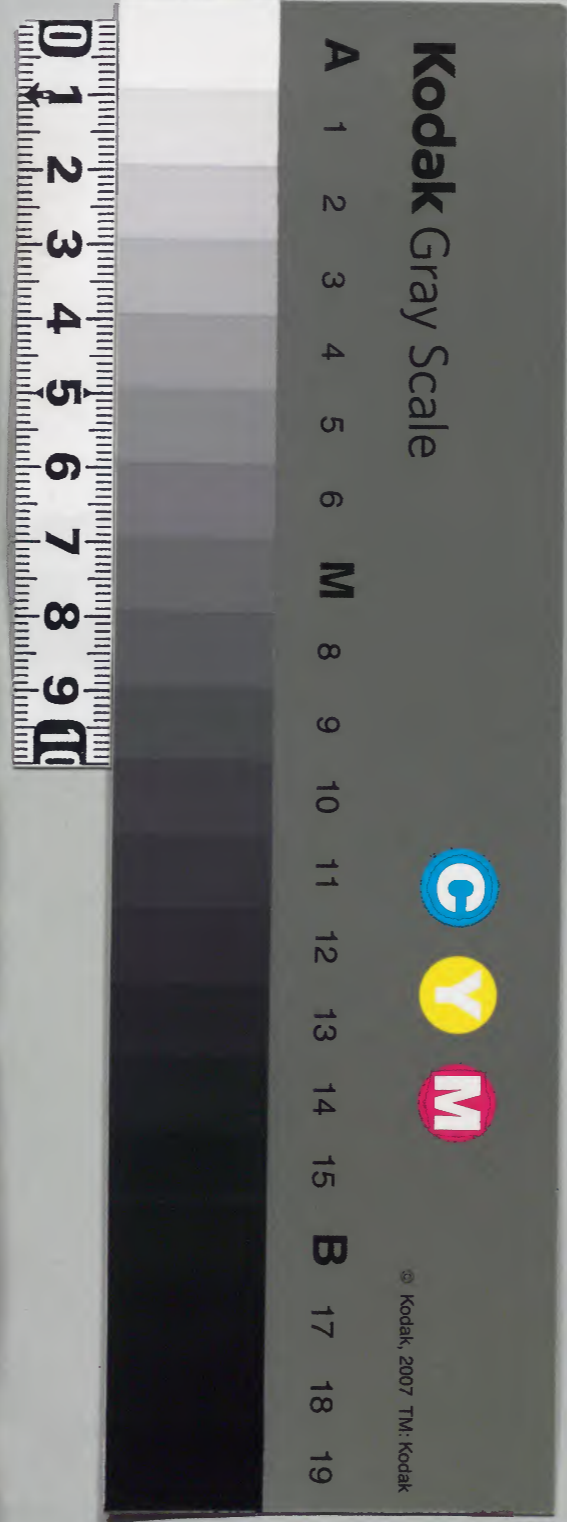




150-18



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

右と断又位下之叙漢文の任久

藤原公能親男
松平右亮元康盛
後藤原公成

二日 去年の春、松平大坂に據りて、河津迄初是年三月廿六日天下
太平に靜謐なり是に依りて河津迄初は、水久江城に於て、今河津
迄初より、諸士共之如く著る也

右 左

松平右亮元康盛
松平中將公忠良
後藤原公成
中藤原右近公忠良
松平丹波守康成

松平外記忠実
後藤原公成

河津迄初、河津迄初、也

三日 林中裏、上野迄初、河津迄初、也
菅分、上野迄初、河津迄初、也
河津迄初、上野迄初、河津迄初、也
女院、河津迄初、上野迄初、河津迄初、也
女院、上野迄初、河津迄初、也
白波迄初、河津迄初、也
白波迄初、河津迄初、也
菅分、上野迄初、河津迄初、也
菅分、上野迄初、河津迄初、也

長橋ノ局
廣橋大納言

英合十史

七段之段

三條大綱云

秋條大綱

岩合名堂正

十九日

右長瀬川位下之叙之傳候之候久

中氏治田之宣稱改之旨

松平之因少稱甚極

和名之旨東カ内

友堂之旨次

右長瀬川位下之叙之傳候之候久

廿一日 大洲所候川中ニ所候之旨アリ以候候之傳達例之旨

云々若ク候ハニカタノ旨合山中平次道次 傳候トシテ江戸ニ

廿二日 此也卦ク以程儀ニ十二所ニシテ江戸ニ到 大洲所ノ傳不

候ヲ 右長瀬川位下之叙之傳候之旨

是候ノ道次之傳候

廿三日 大洲所 傳達例之旨候傳 某ノ旨ニテ仰仰傳候アリ

是之旨ヲ今日田中ヨリ傳候ノ旨ニ違リ入ラセ候フ

二月

初日 大洲所 傳達例之旨 云々江戸ヨリ傳候之旨候傳 某ノ旨ニテ仰仰傳候アリ

候フ

二日 大洲所 傳達例之旨 大洲所ニ 傳候候アリ

南今^上 白波^上 子枝

陸河^上 白波^上 之石枝

女院^上 白波^上 之石枝

女市^上 白波^上 之石枝

女市^上 白波^上 之石枝

女市^上 白波^上 之石枝

女市^上 白波^上 之石枝

上郡 日野 大納言

廣橋 隆安

宣旨 大外記

廿六日 大佛前松平外記忠実より 石にて出例之烟公時之 命

有テ四ノ海霧ニ中山道ヲ經テ城列伏見ニ列リテ城ヲ

告ルヘシ 沖津由慮アルニ信テ忠実ヨリニテ今ノ波城ヲ

カウシシメクセフノ由 左令ツ忠実テ忠実於テ横府ヲ

養ニ中山道ヲ經テ伏見ニ列リテ城ヲ告ル 忠実於伏見ニ在テ城ヲ

二年ヨリ四年ニイタル

勅旨由左ノ在範カ号

中山 信 吉

廿六日

右ノ人從云後下ニ叙ニ信実ヨリニ信又

廿七日 左令ツ横府ノ城ニ於テ史ノ信ヲ

勅旨 左ノ在範カ号

二保 實 保 吉

廿九日

右ノ人從有ノ城ニ於テ史又

作運道留書系

右ハ後村之弟勤久時ニ 大佛新ヨリ沖原指兵宗沖子
唐毛ヲ秀宗ニ傳ル

巳月

二日

水沖年念忠徳

右ハ大佛新ヨリ右ニテ忠祖ノ忠成且忠徳力大坂ノ役軍
功ヲ英賞セラルシ之州ノ城會見ニ了石獨ル

巳日

石川守成忠徳

右ハ夜ノ入 大佛新ヨリ右ニテ相竭之 沖原ノ沖側ニ

惟久時ニ 命ヲテ曰ク者幸汝方忠父石川日向忠成年

去ルル時忠父忠成傳お孫忠徳石川忠成忠成力初子ヲ

ルヨリテ汝ヲシテ石川忠成カシムルコトヲ詳述久林忠新ヲ

愛セ入運之印祖父忠成力忠成ヲ継之忠成ヤ多事ノ忠

顧澤之向米能ク 將軍忠成身仕入ハキノ由ヲ 命セラレ

時ニ大忠徳指右ノ忠成忠徳之説ト曰ク 沖原ニ傳ス

右命ト曰ク新登ノ地ヲ大垣ニ置テ 一乃石ニ及フト云フト七

忠成ニ占ハシ汝忘ル事十カシ成ニシテ忠徳好附シテ是ク

十七日

一 大佛新傳射ノ城ニ於テ 嘉永沖春秋七十八歳是ヨリ九排第

内祀惣名ヲ 臣ニテ君シ莫セハ彼州之徳山ニ葬リ 而
廟ヲ南向ニ遷テ社僧臣ノヲニテ 蓋夜ヲ勤仕忘ル年十ク
轉リナサシムヘニ食糧ニ十五ヲ以テ臣ノ社僧ニ君死シテ
ハニ汝ハ常ク之徳山ニ葬テ 蓋廟ヲ移スルハキノ名ヲ
命セラル是ニ後ニ照久ヲニテ名徳山ノ社僧ヲ崇メラシム
一 夜ニ入り 御名ヲ社僧ノ徳山ニ葬ル

カ多上中野西院

松平大馬守西久

板倉内膳正重回

初久個々各奉朝

右ノ如ク 社僧ニ傳事ス

古井大徳頭利勝

右名公ノ御名代トシテ 社僧ニ候フ

冬深年更ノ儀

成瀬年正正傳

冬之傳社僧ノ儀

冬之傳社僧ノ儀

右名 吳社ニ傳事ス是皆社僧ノ 御遺之ニ傳テ也

一 大御所ノ 苑御ニ傳テ社僧トシテ 國々ヨリ彼府ニ移事ス

一 社僧ニ在リシテ出ルル御所ノ部力ニシテ社僧ノ大御所ノ御所

後本辛酉申ノ時ニ御所ニハキヤノ由リ社僧ノ御所ニ在リ

第廿八代名ヲ存スルノ事ニ決メ大各各後身ヨリ此ニ休セヨ
獨リ海邊スヘキノ由去井大船取利勝ヲ以テ 命セラル
利勝 沖合ノ浪ヲ決メ大各ニ傳ル元是ヨリ中ノテ 公卿政及
唐大十九年ヲ入威恒ス

廿八日

一 公之祖山ニ 柳系治 名智ヲ 柳系門 祀想久カ取ニ去ラレ

二月

十一日

一 春日ノ別法ヲ 徳也ト云ヒテ

之

一 大かけ 一 且れ後 一 かのち

一 大坂後 一 一を海

右ニ海ノ外ニ古瓦上ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ
にきかたノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ
押してつうふとの事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ
若也 何新之 柳

元和二年 二月十日

急也 入ノ柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ
中ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ 柳系門ノ事ニ

申上ノ事ニ付テハ後ノ世ニモハテテハ海ノ西ノ方ニ納ル
ルヨリ古昔ノ時ニテハ海ノ東ノ方ニテハ世ノ以テテハ海ノ西ノ方ニ
テハ上ノ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニ
テハ上ノ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニテハ海ノ東ノ方ニ

左記三年三月十一日

修丹泰ノ時

松本組ノ時

板倉内膳正

松本右衛門

安藤對馬守

土井大炊頭

福井備後守

本多上總守

一上野介

右ノ文ニ付テハ後ノ世ニモハテテハ海ノ西ノ方ニ納ル

第七日

一 古ノ文ニ付テハ後ノ世ニモハテテハ海ノ西ノ方ニ納ル

池田方右衛門

右ノ文ニ付テハ後ノ世ニモハテテハ海ノ西ノ方ニ納ル

六月

第七日

十一 中多由後古正位年八十九歲

十二日

昭和三十九年
松平武元古利隆

右と精別之禮于年八二十三歳
公ヨリ御意下ニテ白浪
石坂ヲ編凡

沼井雅直其母

出井大燈其利隆

右ヨリ後下ニテ又利隆ノ遺儀精別ノ子ニテ
御意下ノ事ヲ知テニ編凡
若政ト号ス

弟信下有
白浪御之

右ハ是月御出立身出立下ニテ

一 是月 治出廿九 軍政ノ後

軍政ノ後

一 又右右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 二子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 三子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 四子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 五子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 六子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一 七子右 治地ニ授 治ニ中 但為治凡

一了石 法苑古疑 男子殿 池云十中 根為法元
旗ニ中 折る百十に涉

元禄二年夏六月

七月

勢波中 沼志輝上 務

右勢波中及上佐川川中 沼志輝上 務
セラレ是ヨリ人 右而折 中世時 沼志輝上 務
又シ 右トシ 命有テ口ク 勢波中 沼志輝上 務
將軍 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
ノ時ニ於テ 將軍 沼志輝上 務 沼志輝上 務

後と 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
内ノ時 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
遊覧スルノ 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
遊ケ 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
中別法ヲ 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
私ノ者ニ 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務
沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務 沼志輝上 務

徳ヲ治ル也云々故ノ後忠輝ニ從ヒ信スル者多ク子三人中子
人ニカテ死ニテ事ヲ強テ信フ是ニ依テ山沢水志ヲ松徳信也
リ彼三人ニ忠輝ハ後府ニ部カシメテト雖スルノ如ク
大洲前ノ老臣末孫也ハ新後ニ依テ忠輝ニ言テ云ク
大洲前ノ所懐リ心ノ印也付上ハ米ニ依テシテ課事申出度是
勢若シテ事ヲ強テ信テ課事申出ハテシテ方ルハキノ者ヲ
課スハ是ニ依テテ事人ヲ課有之送スニ及ハス忠輝信テ是
早希ス云云 大洲前也名孫ニ依テ也云ノ信ト名者後府ニ
來リ集ル時ニ忠輝ハ多ク申出正統ニ内言テ云ク
大洲前沖名孫ニ依テ 沖名申出東京府也云云 此如キ
トトシテ忠輝リ多ク之ニ依テ事人ノ多クシテ沖名ニ事テ沖名
例ヲ同ト事リ或ハ名ヲ云ヒ是ハ正統私ノ忠意及ヒ難キ
ニ依テ付名ヲ 大洲前ノ名姓ニ送ス云云 此如キハ由リ
命セラルニ依テ正統ハ沖名ヲ課テ事人ノ多クシテハ事
若シ方ルニシキノ由リ送ス云云 忠輝信テ忠輝名ニ依テ
事人ノ多クシテ 大洲前 忠輝アリ一七日ニテ後
云ヨリ 忠輝ニ依テ云ク 大洲前沖名世ノ時世也
年數若シ事若シ是ヲ信テ忠輝信スルト云ハ正統許容シ
忠君教サレナキノ上ハ忠輝リ多ク事人ノ多クシテ
信テ事人ノ多クシテ 命セラルニ依テ忠輝信ス

為れ 公に言ふ 遺洲ノ後松平忠直市之別 後内膳正之任ニ
年長是ノ秀則ヲ 上夜トシテ賞恩ニ付ムカシメ 命有テ四ツ
坂府ニ於テ 任官サレ 御家府ノ事ヲ曰フ 後ニ事ハ修リ
世引ニ及フ左記ノ別野ニ奉テ 御名ヲ付ツヘキハナリ
忠輝 命ニ授クニテ 奉リテ別野ニ駐ル若ク時ニ 命有テ
口伝スル所ノ執後任流高圓ヲ被サレノ旨別流高ニ奉キ
宗平又ヘシ是 大洲新ノ御遺命タルノ故也此ニ及ハサルノ
由 各命ニ任テ忠輝ニ云ク遠ク別野ニテ被クニ及ハス程クハ
御教ルサレシヨ被リ付地ニ被テ中書ヲ遺テ 大洲新也此
世ノ名ノ御懐リヨ被ラント被テ 公付名ヲ中書ニ被シテ
被テ其体ニ及ハス一宿ノ御懐シノ為ニト 任官ルニ事ナリ
御名ニカセ早ク被地ニ被クヘキノ 各命ニ任テ付上ハ忠輝
遺流ニ及ハスに付テ 奉ニテ別野ニ被リ時ニ相違ムノ事入
後遺ノ力也云々ノ名也ナリ是ト云テ 後ノ名也任官遺流ニ
被ス 公命有テ四ツノ云新ノ二ツノ物也 大洲新ヨリ後ニ被ル
新ノ名也何由マテモ被サレテ被ヘキノ由 任ニヨツテ
忠輝 為ニテナリ被ノ二ツノ実也ヨリ云テ云井大洲新利也
任ケテ事奉候士僅ニ二十二人

樞中左中
千中掃部
公世左近

長谷川格定

奥平十郎左

奥平九右衛門

戸田宗女

山田文翁

沼名忠重

戸田角兵衛

河村七郎

浅井左内

右にありて其外より年少く是に渡り居りト云へ氏名

四つくミシテ江戸ヨリ仰下知タルノ由ヲ云テ或部人其ノ人

正々ニ於テ押留ルノ旨相渡去又六年ニハ道々途中ノ野田

トシテ道中不意ニ其用ヲ差割ヘルル者輝祀所野田海田

合別院也ニ別テ保居ル 海田山ニ於テハ島田ヲ食スル年々其用

合別院也ヨリ改メ保居ル事ニ由ル者有之居ラシキ事其後中ノ勅存出ラシ後

トシテ野田海田ノ部カニシテ祀所ヲ改メ保居ル事ニ移サレテ後ニ夕

夜別ヲ賜テ保居ル事ニ

移サレテ保居ル事ニ

依之野田海田

横田甚六郎

山田十右衛門

山田新六郎

村野左子氏

山竹之内

右ノ如ク新法公移候トシテ新法由之候ク

安福江府入部

右ハ新法由候トシテ是ニ外ニ所中源也部ノ事ヲ所法ク

新法由候ニ列ノ事者ノ所ニ係出サレハ候

此中者ノ所中人

一 高田ノ城中人

酒井左馬尉

一 田二ノ丸

牧野源右衛門

丹波守

一 田二ノ丸

志田修三郎

一 川中源ノ城

此右之部中人

山田東右衛門

一 松平大膳守

藤村元治守

一 山田半人ノ城

源内因幡守

一 松平新法守

藤江右衛門

元和二年七月六日

候

一 新法由候ノ事ハ新法由候ノ事者ニ係出サレハ候

万一之新法由候ノ事ハ新法由候ノ事者ニ係出サレハ候

一 名三押置櫃機多果日付標竹本奉

一 今夜中書申入込候儀事

一 主前候者ハ上申之儀、但之返右對以申之儀左候

事

一 奉色方又ハ奉奉之旨、奉色方女ノ奉奉之旨、奉色方ノ旨

ト申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

左和二年七月又日

先

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 付置形申下申之旨事

一 弓矢機多果奉色方申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 御奉色方ノ旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

附入之旨申下申之旨事

左和二年七月又日

沼井備後守也利

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

佐渡守也保光

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

一 奉色方ノ旨申下申之旨事

右ハ中徳皇太子御三座テ奉地ヲ加賜セラシ四座置テ一乃右
ノ座入

横山甚左衛門 西次

右ハ長月 公ニ奉仕ス

定

一 奉賞外國車 坂崎御車後付の汁七升小うき
二 在御車

一 奉賞米吉原 付の白米目録之奉免つ御車
一 海方八百文の付の二文免 上流 止御車

右ノ座入也御車奉免御車 百此連置之少智志也仍此件

元禄二年七月日

對子

大炊頭

梅浪

天海僧正

右ハ公ノ在命ヲ甘テ 大佛新御神号奉進ノ事ニ
依テ奉師ニ誠ク奉申ノ程云流トシテ御歩礼一廻ヲ奉
副ハシル

東武安源卷中二

左社二丙辰年 卯八月

八月

十八日

大田名取 水沖河原分長

右表江州ノ地ニ子石加禰セリ凡此所安テ一丁二千石ヲ以テ

廿日

- 一 吳國松若岩ノ割法ヲ 爲出升儿ノ條ノ
- 一 自修河利源 主日申也後後ノ高松行平ノ一書買也
- 一 名許 飯後連風涉ノ雜主申邦ノ地ニ名ニ有是後孫説
- 一 飯後源中事

一 松中 渡 賦 終 年 目 録 二 百 五 十 年

一 名 二 押 買 糧 糶 糶 年

一 被 出 入 者 乃 爲 死 亡 年 小 出 者 爲 死 亡 乃 在 運 送 年

一 松 中 一 高 峯 村 乃 稻 科 者 侵 土 出 法 二 隨 松 自 意 年

一 松 二 年 假 八 月 廿 日

沼 井 權 東 江 卷 世

右 是 是 月 上 州 大 船 停 留 所 之 經 于 倉 邑 二 乃 計 千 石 如 備

やう 儿

横 山 興 知
漢 公 傳 記 文

右 是 是 月 一 年 地 入 二 乃 在 乃 備 儿

安 永 四 年 入 而 正 之

右 是 是 月 任 州 乃 接 渡 河 中 傳 入 年 乃 渡 河 之 早 于 江 戶 乃 備 儿

一 是 月 中 國 乃 買 納 上 仰 出 廿 儿 中 條 目

是

一 白 井 渡 一 雁 橋 一 六 軒

一 一 本 木 一 菅 和 田 一 河 原

一 古 河 一 房 川 渡 一 栗 橋

一 吳 名 一 七 里 十 渡 一 新 月

一 津 所 一 小 見 川 一 松 戶

一 市 川

一 相之松場、外胎より腹小泄遺、その腹中をく
さる事

一 女入、外胎より外名宮成、そのはいつ、是乃松場中ても
呂直、そのはいつ、上相、松井、浦、そのはいつ、
吳、海、の、海、事

一 瑞、口、へ、里、か、よ、ひ、の、の、茶、の、松、浦、玉、成、の、後、女、入、子
願、外、名、宮、成、の、は、いつ、と、中、の、館、人、又、は、什、成、の、事、形、成、
二、五、後、事

一 松、井、浦、後、の、事、形、成、を、く、松、場、外、女、入、名、宮、成、又、は、
名、宮、成、の、の、一、切、名、の、後、事

一 惣、別、の、事、上、事、成、の、の、あ、つ、つ、は、いつ、と、中、の、事
右、の、條、の、經、五、月、生、の、事、又、森、村、也
左、和、三、年、八、月、日

大、快、取
浦、後、也
上、地、也
惟、中、取

九月

十八日 中第又市市忠政年六十二歳

廿九日 飯かサレノ飯

定

- 一 宣味口邊多し時玉を賜へ一切名をか合事
- 一 村人刺傷く刺中村々外を去場名をか合事
- 一 町中火事 名をか合事 近一切の池集個名をか合事
- 一人ノ死と云は新子名中録と名をか合事 寺外飯能名をか合事
- 名をか合事

右ノ條ノ條々々々ノ説若程多し遠月奉公息云云 養村
 也也

天和二年辰九月廿九日

天海僧正

右ノ條ノ條々々々ノ説若程多し遠月奉公息云云 養村
 也也

一 号月 公ノ命ニ依テ 家光公ニ附居セウレノ事候テ
 六十一人

中根徳七郎
 後大膳重信
 津尾内 祀
 後大膳重信
 秋山 之 臣 市
 後大膳重信
 沼井 又 市 助
 後大膳重信

稻垣友七郎
 後大膳重信
 井上 道 五 郎
 後大膳重信
 磯 山 之 臣 市
 後大膳重信
 之 所 在 市 助
 後大膳重信

三枝宗旧市
治云佐田之任人

户根作左卫

稻原新二市

高田为八市
治云佐田

吉虫肌左卫

内黄久八市

西村物右市

中津谷左市

渡边左九市
治云佐田

川原八市
治云佐田

小川宗二市
治云佐田

松平宗家
治云佐田

户田又八

堀一左市

若原左市

山田为三市

市原大左市

大野平左市

多田二左市
治云佐田

若狭海六市

松平清二市

松平友之助
治云佐田

植村権左市

安原清十市

牧井右左市
治云佐田

倉橋之文市
治云佐田

古庄左市
治云佐田

水尾清左市

加茂物右市

伊藤左市

山田旧市

户田为八市

户田数子
治云佐田

河田物右市

大之保右市

渡边清十市

若原宗六市
治云佐田

三枝新九市

渡边忠旧市

山多山二市
治云佐田

岩川市

竹野市

佐野市

芝山市

横川市

坪内市

横濱市

河村市

小沢市

津島市

浅野市

船橋市

遠山市

右之郡... 切之... 計六十八人... 補六十八人...

一人... 一人... 一人...

松平...

松平...

松平...

松平...

松平...

松平...

松平...

松平...

右之郡...

沼津市

吉田市

内田市

右之郡...

二六四

一 滋水年九歳正親年六十六歳

二六四

上庄丹後色男
織田信之助伝則

右邊之役中ノ叙之為流之任之刑初之始ト號ス

二六四

一 下地之目左山ニ

東照太極親ノ御座社御達立有リ

云後信正傳張リ又ニ

小多上地女正統

後松本在馬子貴

右邊人ノ以筆抄トス

日松地城初正

小多茂世席

山代之内

精谷彩之布

右邊之是之割ワ

下地之古郡去ノ城也

中條之古河城也

菅原之古郡也

奥平九八席

後松本在馬子貴

小多茂世席

松平丹波の在長

本陸中下級ノ城ニ

水宮伊賀守藤隆

此外郡須磨川ノ水ニ寄ル人丈シテ先出ス

七ノナリ、本年ノ夏月山岳ニ 伊藤社遺早アハキノ由

任出サレニ依テ晝夜急タラヌ送管ノ事ヲ勤ム

本宿江布入市也

在ル是月山城ノ水田ノ場ヲホリテ古ノ子ヲ獲ク是時ス

十一月

七日

一 作名留河内守敏実ノ年又六十六歳

垣尾源三郎清久

十八日

右路テノ 公ニ渴ク 因九年ヨリ 將軍

西尾若原重茂

十九日

右年又七十二歳 顯子十キニ依テ和原ニ人ヲ出テ子トシテ

右路ヲ分ケ与ル

因六路後藤男

織田藤法師信良

廿九日

右路又後中ニ叙シ後任ニ任シ去於本城ト号ス

十二月

十二日

別正孫江布

修業掃部助

素山左馬位

右様江戸新道ノ風を屋ヲ建テ塔風を可燒キ右馬位
 招テ是ヲ池迄久左馬位ハ其夜位を大燈籠カ燈籠毎
 車ニ依テ右馬位ハ大燈籠中ノ別ニ立リテ帳ヲ巻テ被毛ニ卧ム
 カント又何ニ別而素山カ袖ヲヒカエ襟礼ノ別段イマ夕邊カラ
 スト云テ又是ヲかニテ頻リに酒ヲ又、云ル奉教を及ヒ
 亭之ノ別而モ名ノ修業モ礼辭ス左馬位ハ襟礼ノ名ニ
 部少心若クハ依テ是ヲ信テ沉醉セ又此ハ別ニ別而カ
 云ク松倉右馬位ハ福丹後者二人ニ依地ヲ加稱セテ是又云ル
 又坂ノ坂軍初ヲ當セテハ、ノ由ヲ少ク怯弱ナル者後者也
 右ノ依地ヲ加稱セラレハ右馬位トキノ軍志ハ其ハナク右
 宗地ヲ稱テモ程名長ナル由ヲ惡トス掃部助ハ其後モト
 好交ノ友ハ是ニ依テ掃部助カ云ク別而カ云ハ礼儀ノ辭相
 カ又此又ノ道ヲ知ラサル惡云ナリ松倉ト云レテ源志ノ友
 タル事ヲ知テ是ヲ云ハ礼ナリ然リトイハレ今日ハ一燈ノ
 相云ニナシテ四ニテ付ケムラハ必塔也スハカウスト云フ
 別而中ヲ掃部助何ヲ云フ塔中一ノ松倉ト稱シマニハ
 其志松倉ニ因シカレハ其友ハ其志ハ其志ト云フ然ラハ其志
 弱ノ志ナルハシト悪レ吐ク是ニ依テ修業也タル者ヲ掃部

右ノ依地ヲ加稱セラレハ右馬位トキノ軍志ハ其ハナク右
 宗地ヲ稱テモ程名長ナル由ヲ惡トス掃部助ハ其後モト
 好交ノ友ハ是ニ依テ掃部助カ云ク別而カ云ハ礼儀ノ辭相
 カ又此又ノ道ヲ知ラサル惡云ナリ松倉ト云レテ源志ノ友
 タル事ヲ知テ是ヲ云ハ礼ナリ然リトイハレ今日ハ一燈ノ
 相云ニナシテ四ニテ付ケムラハ必塔也スハカウスト云フ
 別而中ヲ掃部助何ヲ云フ塔中一ノ松倉ト稱シマニハ
 其志松倉ニ因シカレハ其友ハ其志ハ其志ト云フ然ラハ其志
 弱ノ志ナルハシト悪レ吐ク是ニ依テ修業也タル者ヲ掃部

此三列下力取ヲウツ列下ニ云ヲ云ハス惟指九寸ヲ援テ掃掃脚
 ヲ裏ク在處作列下ヲ押エ留テ二人ノ留ニ分テ入ル時ニ列下ト
 列下力ハ産額力ヲ以テ後ヨリ掃掃脚ヲ一刀切レ在處作又
 彼レヲ押へ留ルノ處ニ列下力子孫ノ思及ヒ人未教ノ人
 是リ集リ登ニ修及切額ハ在處作ニ右ノ身ニ指ニ指ヲ
 彼レ掃掃脚力取人未付掃掃脚ヲ以テ去テヨリ内ニ乱シ入
 ラント幾久時ニ在處作カ向テ冠洋既ニ事畢テ掃掃脚
 是後ナシ計上後等掃掃脚ニ及ハ、主ノ掃掃脚力身ノ上置
 シカレマニキノ由リ別シ止ル是ニ後テ掃掃脚力後志未断
 流レ在處作大股氣計度ヲ以テ列下力取ニ此ヤ本レ在處作
 掃掃脚ノ事ヲ位久留ニ流レ別大股氣等以テ此也後テ計由リ
 是ノ掃掃脚力程程等列下ト業山をヲ系テ修及ヲ教及又
 此ノ由リ列下ノ事其ノ事ニアナルノ故ニ在處作位指ノ里居又
 ルトイハレ程テ教及ヲ當テ是ナニ位之留ニ股氣計村田等
 此後二人ヲ掃掃脚トシテ之を列下掃掃脚切後ノ掃掃脚力子
 掃掃脚力子二人云ニ進放セラル掃掃脚力子二人云ニ進放セラル
在列下ノ二位ヲ以テ之ヲ改メ

成田左衛門長忠

右年入 長忠力男初十郎長邦又ニ云テ早世ハ長邦力男初十郎
 長忠力ニ長初年夕ルニ位テ長忠力ニ男在處作分家
 當時ノ後嗣トシテ初十郎又初十郎長忠力ニ位テ長忠力初十郎
 初十郎ノ山ノ初十郎在處作初十郎八年分家初十郎長忠力ニ位テ
 長忠力初十郎在處作初十郎八年分家初十郎長忠力ニ位テ
 長忠力初十郎在處作初十郎八年分家初十郎長忠力ニ位テ

廿六日

右侍渡之任久

松平陸奥守の御事
松平越前守の御事

丹後守の御事
京極守の御事

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル
公ノ名被ニ任ス 命有テ田舎守ハ是ヨリ輕クト云フトモ
名ノ新テ任スルキノ由 作テ置リ候入候下ニ叙シ侍渡ニ
任セシメ給フ

各御事御信置

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル
右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル
右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル
右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル
右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右侍の任久ハ此ノ由ニ任スル

右長尾景春年深之恒下、叙之毎歳書之恒之

松平中將の忠臣

右長尾景春年中徳忠実名ノ城、家北田了石ヲ將シテ流別ノ城

城、金尾了石ヲ將シテ加藤

松平治源の忠臣

右長尾景春流別河津中將ノ城、家北十二了石ヲ將シテ

小室左兵衛の忠臣

右長尾景春流別松平ノ城、家北八了石ヲ將シテ流別河津城

堀井左兵衛の忠臣

金尾了石ヲ將シテ加藤

右長尾景春上列ノ所ノ城、了石ヲ將シテ流別河津ノ城

家北了石ヲ將シテ

松平丹波守の忠臣

右長尾景春常陸守景昌ノ城、家北三了石ヲ將シテ上列

高所ノ城、了石ヲ將シテ

佐々木清盛の忠臣

右長尾景春流別飯山ノ城、家北二了石ヲ將シテ河津ノ城ノ所

城

松平右衛門の忠臣

右長尾景春肥前守了石ノ城、了石ヲ將シテ河津ノ城ノ所

佛卜号之是之居城又今ノ浦中

佛垣年々其地治松浦也

右是是年秋後空并所那之於之合邑二万石ヲ得凡

妙地後河も在成

右是是年上列之於之於之秋後空長程ヲ得凡約夕二
萬石之是也

右田之程利者

右是是年上列七百石之於之宋地一万石ヲ得凡

城丹波也

右是是年秋後空長程ノ城宋地八万石ヲ得凡

水井後河も在成

右是是年上列萬石ノ江州志也於之於之合邑二万石ヲ得凡
セ之凡十石ヲ得又

本下之南浦利者

右是是年秋後空長程ノ宋地二万石ヲ得凡

松平城也

右是是年上列萬石ノ合邑二万石ヲ得凡

水井後河も在成

右是是年上列萬石ノ於之於之合邑二万石ヲ得凡
加福凡

坂本守康

右長尾年徳川徳城領之内東北二千名地賜せり

久米源三郎

右長尾年徳川領之内石加賜せり

森多丹部

右長尾年松川村鹿嶋村に於て六百石地賜せり

其子石加賜せり

沼井大膳

右長尾年切向公之謂之食邑七百石賜せり

大塚

右長尾年徳川領之内領下十石

水野元徳

右長尾年赤松地五百石賜せり

松平忠重

右長尾年赤松領下十石

杉原内通

右長尾年公之謂之食邑二百石賜せり

天地長伝

右長尾年赤松領下十石

松平定房

後長尾

右長尾景春始平河内之系

出保書
三原松源系保書

右長尾景春 公ノ 命ヲ 甘テ 春議 景春之 屬久 正長尾景
ヨリ 景春之 景春久ノ 後ヲ 又正長尾景春ノ 正長尾景春
七右長尾景春之 又正長尾景春ノ 後ヲ 正長尾景春ノ 正長尾景春

長尾景春之 命

右長尾景春 中務之 於平河内之 右長尾景春

長尾景春之 命

右長尾景春 河内ノ 礼ノ 列ノ 姓

長尾景春之 命

右長尾景春 河内ノ 禮ノ 列ノ 姓 命之 後ヲ 春議

中務景春之 屬久ノ 孫自之 景春 景春ヲ 景春ノ 子ト 又曰

長尾景春之 命

長尾景春之 命

長尾景春之 命

右長尾景春 公之 命

長尾景春之 命

右長尾景春 公之 命

一 是年 大將文 景春ノ 後 景春ノ 討 景春ノ 有 景春ノ 河内

及 上 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命

公 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命 景春ノ 命

納ノウレカ多上地外正純 名命ヲ申テ江戸ヨリ渡列ニ就キ
是ヲ決法ス

山田清右衛門

二条物産(京勝)

右二人是年伏見ノ草沙トナル二人トモニ正和七年ヨリ
渡府町草沙勤

冬ノ識中相親宣

右是年ヨリ渡府ノ徳山 大橋渡ノ沖本社相殿(本地堂)

祐永堂(沖佐新)横門ヨリ若宮沖達ニテアリ候(遠見)

本年ヨリ勤ム

在武實録卷中之一

正和二年己未 自正月
至十二月

正月

朔日 列儀公下江戸ノ城ニ出テ 云々 渴之形正ヨリ候ス
十日 幸始ニ喜傳トシテ

棟妻上 白浪石板 院御子板

院御新上 白浪六十枚 院御入石板

女院ノ御新上

白浪又板板

中殿ノ御新上

白浪又板板

白波武松投

長橋馬

黄金十五

廣橋大納言

月形

三條大納言

白波三枝

秋篠大納言

月形

岩倉重政

十日

江戸天徳寺燈七宗良 初許ノ 繪旨 大納言沖集

弟中子奉還備一物又ノ 是ヨリ也 幸手川越ノ城 大納言宗重

左幸手 乙卯之又ノ石ノ高取ヲ去徳也
岩附セラレ 沖集平ヲ揚ル

是ヨリ也 幸手川越ノ城 大納言宗重
内蔵 伝彦

右幸手月形 伝彦 書院 若司 知公

長所 徳重 申 正 忠

十日

二月

十一日 尾房助 玄米 磯之 幸又ノ 六指 九歳

廿一日

十二日 一家 康云ノ 初三テ 東照大権現ノ 祓忌ヲ 司 徳元

大正 幸手 初巻 左 宗重
松平 徳重 申 正 忠

廿二日

右幸又ノ 六指 一歳

二月

六日 宮上後河原の宮宿所 年々二十六歳

九日

一 東照大権院に勅して徳正一後ヲ御見

十六日

一 大権院より後河原徳正ヨリ御別日岩山に改メ奉見是

諸君ノ御送命之儀ナリ是日迄ノ刻

云海僧正

中多上御分正純

去井大権院利勝

松平右近守正久

板倉内膳正重忠

秋之領正重泰朝

右之る條新より従へ難き一人後河原徳正ニ先ニ云海僧正

年ツカフ御遊リ取ル是大職御奉見リテ改ムル由例也

中多上御分正純

去井大権院利勝

松平右近守正久

板倉内膳正重忠

秋久但百古奉朝

廣津年念正

安房常力正次

中山備系正法名

柳原内祀照久

右各是之遊フ

十六日

一 豊枯之徳之訓止前之日御送留

十七日

大橋長尾正保

公儀上之 御系流アリ 建中ニ於テ右長尾正保 判發シテ後

御状ヲ撰テ抄列ニ被入奉テ 所於御中ニ正法ヲ以テ

云上ニテ云ク 慶長十九年大坂之亂ノ時 八塔行相正法正保

叛軍有ノ由云ク 是ニ依テ 秀程公ヲ正法正保ニ隔ルニ由正

己ノ宅地ニ橋築ル中ニ 橋正保及ヒ 信山氏初毛利玄左

天地十左馬 西川八左馬 中井助十郎 伊東修左馬 大橋

長左馬 等片桐卜野之有ルニ依テ 是ニ為スルニトテ 正

正法 秀程共叙テ 叙シテ 正法正保ヲ許ス 正保モ又其難ヲ

免ル 大橋又 公儀君大坂 御送留ノ時 正法正保正

右命ニ依テ 御系流ノ際ニ 加ル正保モ 又是ニ依テ 御送留

大坂再亂ノ後 市正正保正及ヒ 信山氏初毛利玄左

天冲十太史(西川八右史)水井此十市修系修在是(等)
百ニテ魔下ニ居シカバテヲ獨ル時ニ至保ハ為不修ノ海
陸ニテ海ヲ被リ是ヲ保置スルノ故ニ去列ニ取ルヲサレ
ノ出リ入リノ所於海中ニ正次付者ヲ。名種ニ達ス不後
道ニ至保リ。百ニテ魔下ニ居ス

十八日

一 重櫃小田原ニ列ル日沖遠局

廿日

一 重櫃中東ニ列ル

廿一日

一 重櫃武列府中ニ列ル日沖遠局

廿二日

一 重櫃仙波ニ列ル

廿三日

右ニ天海僧正ヲ信シテ海談法問アリ

一 大津之住若^{海談相子也}長思至。江戸ヲ去實死別若山ニ就キ

信ヲ

廿六日

一 天海僧正自ツカフ礼僧ヲ信シテ法華讀誦

廿七日

附所産物と塩漬の海産物元之介と為る用是計

名ニ舟小舟カワシハ五料ト一トシ浪子一枚トカ事

一自然世に極の候か茶以とも若くは銀下知なく

と才くくすいぬ海中人ホニ事速名ツカ事

一もよくは陸水石法も一歩ノノノ事五式入水物

と人ノ事後ホも人カ法ホカハ和若堂名一法

ハ十八事

一物子ノ中ホホ事一も引入居くノ事若ホ事ハ

ラは浪子一枚ツカ一但ホ沖用 沖ノノノノノハ

為る別事

一沖法ノ時ノノノノノノノ事ホ事ホ事ノノノノ

付白ハ浪子一枚ツカ一

一田圃付ノノノノノノノノノノノノノノノノ

カウノノノノノノノノノノノノノノノノ

一水道具入込ノノノノノノノ

一沖ノノノノノノノノノノノノノノノノ

事

一程河邊ノノノノノノノノノノノノノノノノ

ナノノ事

一何も但路ノノノノノノノノノノノノノノノノ

右つむらひのしるし

正和二年四月日

八日

一 西之櫃より真の院座塔之納云

一 付度田中忠盛之儀テ下向ノハ海月卿云云

梶井法親王殿

正号院権徳源院

座格大納云

三條大納云

日野大納云

延園中納云

冷泉中納云

西洞院宰相

澄宗与宰相

中沖門宰相

河野宰相

座格取毎

鳥丸右中兵

被物殿上人

正和河少将

半紫使

宣命使

半紫

日

水之洲少将

水名少将

友名少将

友 右为作

高舍少将

东坊城被落信徒

竹内刑部少将

樋上信徒

平松信徒

去思乃为依

唐搦氏初少将

士世極少将

岩次少将人

法 卷人

唐搦氏初少将

三條大納言

目地大納言

比过宰相

柳尔改左中书

唐搦氏初少将

牛引

半抄

竹屋左少将

十一日

一 公日光 御中山

十日

一 祇王候ノ 殿ニ移ニ侍ル

初使

阿野季相安頼

右中山ニテ 正使 東照大権左ノ 宣命ヲ授

公 御余詣

十五日

一 公 御中山

十六日

一 祇王候ノ 殿ヨリ 正使ニ 遷ニ侍ル

一 右侍奉次ニ 公御殿上人 公ニ 酒ニ 奉次増ク 在テ

梶井法親王最流

右 御對卷

十七日

一 中社ニ 經テ 法合アリ 公 御中山 侍奉

半抄

大沢少将

御公卷

右 左使侍

御公卷

右 左使侍

所叙

沼井千鶴也

所叙

永井伝法也

右名是ヲ叙ス

十八日

一 此業師 堂法也

十九日

一 真院 廟堂法也

廿日

一 廿日ヨリ廿二日ニ至リテ法華讀誦一万部 礼佛二万六千回

法名ノ時 尊師 天海僧正 願ハ臣等 臣院 権僧正 堂海法誠
権井法親 堂最親 堂是ヲ叙ス 云 所叙也

著座

廣橋玄綱也

三條大綱也

阿比奈相宣也

中道 宰相宣衡

法原 古宰相宣房

右ノ外 述ノ深 卿相之公 容也 山布 院被 抄 祿 為 著 也
多之 甚 甚 也

廿一日

一 廿一日 山ヨリ 山ノ 還 所 甚 後 是 月

家老公日光行也山 沖廊社遺堂ノ事

本多上野丹正純

日根津城遺堂

右ハ台命ヲ其テ是ヲ監ス

如多若尾氏正盛

山代家内

糺官形二席

右ハ其ノスルノ如ニ糺官ハ遺堂ニ在リ病死ス或夜

友尾市之内ニ入相澤スハキキ有テ日根津力強名ニ

會合ニシテ夜深ク及テ其ノトト能スルノ如ニ友尾市ト

之内上流ニシテ友尾市力カノ糺官ニ是ヲ為テ之内ヲ亦

例ス之内出立名ニ為リ其夜ノ音振テ其直テ自教ス是ヲ

少テ友尾市モ因ク自教スハキノ如ニ遠クニ其ノ十キ丁ヲ

思テ其如ク為遠クニ其ノ後遺堂ニ自教スハ十一歳如多若尾氏

一付友尾市也少ノに其ノ神也云々江戸ノ事向吾賜モノ

アリ

右邊子校

梶井法親五

右邊之石校

廣橋大納言

日引

三條大納言

白波引石投

日野大納言

因形

西園寺大納言

因形

冷泉中納言

白波石投

阿保中納言

因形

中興宰相

因形

為洞院宰相

因形

澄原中宰相

因形

田邊宰相

因形

彦根宰相

因形

柳井宰相

白波石投

竹田宰相

因形

鳥丸宰相

因形

赤坂城

因形

坂右衛門

因形

水谷少將

因形

山名少將

因形

大馬左衛門

因形

正親町少將

因形

竹園刑部卿

因形

高倉右大臣

白波之松枝

因形

因形

因形

因形

因形

因形

因形

因形

園少将

鏡山流少将

樋口信澄

平松信澄

黄若少将

廣橋氏初若

土生極藤

若次若人

清若人

六月

二日

右山崎子 云之謂久

主膳正出次男
之次子市村様次
後主膳正之孫久

八日

右山崎子 初使目左山ノ庄礼トシテ 林重忠六

大以出初基若若
若人

九日

右山崎子 是春卒久其子源之序弟俊之又在若乃定好ヲ得凡
時ニ 出出サレノ御ナ

之上後山崎氏親

條ノ

一後河津沼藏者古蹟中村上と、お母も後河津の地仕主と致
沙汰事

一官中御達、一平二子石の上と上二子石の上と
名之及沙汰沼藏者も身後主に合公上の中村事

一公事批判之後、後河津の中村代の中村、陣内相談、
上名徳分列候おきと上二云上事

一お母も後河津の中村代の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

一お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

一お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

一お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

一お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、
お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

十二日

一公事批判後河津の中村、お母も後河津の中村、

お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

お母も後河津の中村、お母も後河津の中村、

此中袖石 八丈襦 二石指 右袂子枝

右花利帯之裾凡

右ノ帯衣 刀貞衣 腰指初身衣

子一丈短 小袖石 袴石

白糸石引 紅糸石引 袴 子把

花柄 石巻短 黄糸之石指

右花利帯是ヲ 袂ノ裾未七貫カサ 上貫アリ 二石指ニテ

小袖成 袴未七貫ニテ 又ノ其餘ノ袂ノ裾ニ小袖ヲ入ル

袴ニ入ルニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

廿日

西井惟永伝

去来ノ時ニ利勝

石ノ面ノ東海邊伝 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ 袴ニ入ルニテ

袴ニ入ルニテ

八月廿日

安房對馬

去井大畑

酒井惟中

一 公卿上洛之儀 儀書サレハ返

儀

一 今度御儀 時極長申上 儀書可通ニ付 申上ノ
申上ノ左右ニ申上 儀書ニ付

一 儀書上ノ儀 申上ノ申上 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付
儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

儀書

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 御書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付 儀書ニ付

一 細路・全分と坤名として日御年をく 殿中よつお
浩奉

一 沖徳の時を乃口として世系をあらわす

一 徳乃具入ま

一 種河内

一 ちの事

一 小倉

一 山方

一 一州

一 右

一 中

一 庄和三年己未月廿二日

一 先

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

十九日

一 義直様申納之任久 左巻源
中巻

一 在直様申納之任久 左巻源
中巻

中納言秀康の男
松平之河守也道

右巻之儀之任久 極右通
極少

勘助の地方男
丹波勘助氏伝

右巻又後下之任久 身軽大納言之任久

一 左巻之任久 左巻源
中巻

沼井の内膳也

廿一日

右巻又上巻之任久 左巻源
中巻

一 義直様申納之任久 左巻源
中巻

長官古法度

一 為学同任久 新化名通
下年上巻

一 坊舎兼古任久 私名
下年上巻

一 新化元名用任久 命好法持
有上巻源
中巻

右巻又上巻之任久 左巻源
中巻

左巻之任久 七月廿一日

小沈坊之任久

山崎中納言の家治

左巻又上巻之任久 左巻源
中巻

建初内道改長

右左是月控別屋之所ノ改ノ控別林田家地一了右揚凡

地習必倉名君ノ城

里見倉房忠我

同玉名坂ノ城

里見倉房忠我

右左是月没収セラシ
里見倉房忠我
勢居スルノ地彼城ノ夕凡控ノ安房忠ノ降
カレ地習必倉名君ノ城倉名君ノ城ノ地ノ安房忠ノ降
又倉名没収セラシ地ノ城ハ下有テ道ニ架サス

里見倉房忠我

右横没トニテ組ノ口糧率ノ候ヘテ地習必倉名君ノ城ニ里見

倉房忠我長ノ口没収ノ所似地安左道名ノ地習必倉名君ノ城

右左是月没収セラシ地ノ安房忠ノ降

八月

初日

一 織知長ノ更ノ在治略テ 公ニ湯又

八日

一 大村丹波中善治末辛ノ日十八歳

廿一日

一 公仰代替ノ加候トニテ相替必

正使
通政右更具元
通訓左更朴樺

後事友
通判李景稷

右未相シテ入洛入大徳あり以テ権録トス時ニ
公ハ伏見ニ御坐城アリ

廿六日

宋對子の義成

右右相解ノニ使ヲ引テ伏見ノ城ニ坐リ深礼ス飲物アリ
一 後陽成院 皇位ニ于テ平清國仁陽成院ノ皇子
母幼惟高内大臣時季女朝照因院 萬入承順也ニ
葬

廿七日

大井文ノ御殿初常也
右深也秀行ニ贈ス
清地四子也長原室

右右記別屋山ニ控テ遊玄妙年二十九年西清院ト号ス
洛陽初屋山ニ葬ル為メニ後年龍列唐橋ニ西清寺ヲ
造ル

右橋中徳也長原

右右是月龍後皇ノ系ノ城家地也了ニ字右ヲ稱ル 龍橋ニ
萬石
其子長政 後平徳也ニ合邑別ニニ子右ヲ稱ル

九月

廿八日

一 朝解ノニ使伏見ノ城ニ坐リ為由ノ時ヲ得賜モノ名アリ
義成ニ亡國ノ時ヲ獨リ是殿石波ヲ深敬ス

一 智積院ノ御別法ヲ 恒有廿七

一 為學向伯山ノ新化小滿二十二年十一名ニ枕法幢車

一 新化中不徒德化ノ令其法ノ儀ヲ行フニ上ニ遊放也

中事

一 新化中銘院堂企堂車ノ志標果ノ上ニ遊放ノ若標標

不知ノ上ニ座立人ノ積者車

右管ニ古由付分也

左記三年九月八日

六日 春日ノ社ニ志標ヲ移ル春日社住持自福寺

一 一ノ百六十石八斗余 社法田但祇園方

一 一ノ百九十石六斗余 院法田但祇園方

一 一ノ百六十石七斗余 大志院

一 一ノ百八十石 在野院法田

一 一ノ百九十石 院法田中法

一 一ノ百七十石 院法田

一 一ノ百七十石 院法田

一 一ノ百七十石 院法田

一 一ノ百七十石 院法田

一 一ノ百七十石 院法田

一 一ノ百九十石 院法田

一 一ノ百九十石 院法田

一 二拾之石部汁糸

祿運屋敷

一 二拾八十石

礼院了

一 拾九石九斗糸

过礼監 昇正室院
席兼仕屋敷

一 拾合外了 五石拾九石六斗糸

右二合拾納但之師部り分文配末一右吉別紙目録之分
去也

一 庄和二年九月六日

七日 春日ノ礼僧二 作廿几ノ派

春日御信御修理系礼院下御安寺既又師部分

一 高石石八十七石六斗糸 大和国新

一 御方石部糸 在寺院精別高石石一平 曾送舟中

一 二人免中御又師部 福石石合石部糸 在成在春春日

出免寺院御部領 在并一内 在春

一 御部信石一石六斗七石七斗糸 納被春月分八石

月廿八日何養立合石 在後春

一 御部被換出御部 在春出寺精在寺院精別在春分

役人石部糸合石 在後二在春更

一 禮了石部信在因春更

一 御部糸之 在春十月廿一日合石 在後春

一 御部信石部糸 在石六斗七石七斗糸 在後二在春更

中宮市魚

福井右系

右名列ニ列シ

一 是月七夜社山城守之弟男 始テ 云ニ詣入

大村氏領備地社

右是月又丹波も嘉嘉弟刀造之能元也大村ニテ子
九石石余揚凡

十月

十八日 中宮市魚の改換も云々始テ 云ニ詣入

十一月

又日 所定時辰の改換年入七拾五歳

十二日

一 江戸山王ノ社ニ社名百石ヲ奉附セテシ 御朱印ヲ得ル
山王殿武蔵守玉沙中ノ内百石奉奉 今奉附シ訖令社術
申名之方お遺シ状出件

左社ニ奉十一月十二日

是ヨリ中宮市 大社名天正十九年十一月社名百石山王ノ社奉附
アリ付後 享和十二年六月十七日 大藏院殿奉百石ノ地ヲ以テ
小宮ノ社ニ奉附セラレ
始テ社名百石

一 是月 公卿致書トシテ致意奉命ニ 後河アリ

十二月

十三日

在 命ヲ奉テ又之信正並次ノ在留ヲ健ク
立之河津七師持次
後河原西之信正

十八日

在 公卿致書列中 右ニ據フ
松平陸奥守正宗

十九日

外祖又松平右京長次郎子
實ハ田中左三郎左忠房
松平十左衛門長心

在 命ヲ奉テ又之信正並次ノ在留ヲ健ク

廿二日

公卿致書中申事ニ有之信正並次ノ在留ヲ健ク
二月十九日 本神主也
二十名聖子附アリ

源井隆未正忠母

か多上河母正純

井上計正純

安房常力正次

彦坂九玄正忠

右 是月 尊ル

陸奥守正宗カ
又陸奥守正宗カ
松平十左衛門長心

右 是月 公卿不之信正並次ノ在留ヲ健ク
公卿致書トシテ致意奉命ニ 後河アリ

據セシメテ健ク 命ヲ奉テ又之信正並次ノ在留ヲ健ク
松平十左衛門長心

附属ノ時ニ業地ニ在利久ニ獨班工ラレ

松平内通知兼

右ノ是月 公ノ沖州ニ其位ノ時ニ食源入石後堀凡

左馬村在流ノ之男
沼井忠重

右ノ是月 溪入位下ニ叙ニ基ノ男ニ任ス

大膳右衛門左衛門
松平忠房

右ノ是月 溪入位下ニ叙ニ右ノ男ニ任ス

松平忠房
松平忠房

一 是年 常陸會邑ニ之右ノ加儀セラレ

右ノ是年 溪入位下ニ叙ス

右ノ是年 常陸會邑ニ之右ノ加儀セラレ

右ノ是年 溪入位下ニ叙ニ備後ニ任ス

備後守 杉水カヨ
近江守 杉本忠茂

右ノ是年 溪入位下ニ叙ニ右ノ男ニ任ス

右ノ是年 常陸會邑ニ之右ノ加儀セラレ

右ノ是年 溪入位下ニ叙ニ備後ニ任ス

右ノ是年 常陸會邑ニ之右ノ加儀セラレ

右ノ是年 柳上流ノ時 伏見ニ移テ 湯合ヲ其テ名ヲ

名給テ柳ニ改メ安成對テ右ノ位

右ノ是年 柳上流ノ時 伏見ニ移テ 湯合ヲ其テ名ヲ
名給テ柳ニ改メ安成對テ右ノ位

右ノ是年 播磨守ヲ改メ因幡伯耆二列食邑 籠テ二十
二万石ヲ賜ル

カクモ源ノ忠政

右ノ是年 曾別業名ノ城 食邑十万石ヲ改メ播磨 熊鷹ノ城
築地十二万石賜ル 忠政カ賜テ中督志備 忠烈 地ニ食邑
十万石ヲ賜テ又子忠三 熊鷹ノ城ニ任メ二男中督 忠政 忠烈
新野ノ城 築地六万石賜ル

友室 祐原 忠政

右ノ是年 山城大和二列ニ於テ 食邑六万石加賜セラル
旧任 籠テ二十二万石ノ子石ヲ任ス

松平 隆信 忠政

右ノ是年 曾別業名ノ城 築地十一万石賜ル 是ヨリ中督 忠政
城守ヲ勤メテ右ノ子石ヲ任ス 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信
三ノ右ノ任ス 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信

松平 丹波 隆信

右ノ是年 上列ノ所ノ城 築地六万石ヲ賜テ 隆信 隆信 隆信
城 食邑七万石賜ル

隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信

右ノ是年 常陸 赤松 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信
高瀬ノ城 築地六万石ヲ賜ル

隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信 隆信

右正長元年常陸出浦ノ城築地ニ万石ヲ賜ル

松平大膳守重勝

右正長元年中務少輔定高ノ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル合邑ノ石
松平上総守忠輝ノ石ノ石トナリ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル合邑ノ石
大膳守重勝ニ万石ノ石トナリ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル合邑ノ石
後主膳ヲ任セテ幕下ニ召入

海中小島石ノ石
池田海守重景

右正長元年因幡守重景ノ城築地ニ万石ノ石ヲ賜ル

海中小島松山ノ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル

服部源守重元

右正長元年修羅園大洲ノ城築地ニ万石ノ石ヲ賜ル
飯田ノ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル

加藤玄貞守貞泰

右正長元年伯耆守重景ノ城ヲ賜ル
石ノ石ヲ賜ル

戸田左門守重景

右正長元年江別膳所ノ城ニ万石ノ石ヲ賜ル
城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル

加多禮殿助重景

右正長元年三河尾ノ城合邑ニ万石ノ石ヲ賜ル
城築地ニ万石ノ石ヲ賜ル

松平為監城重

右是是年之別圖尾ノ城此地ニ有石橋凡加橋一

如井右近守重勝

右是是年平定後出立之者ノ城今邑邑ニ有二子石橋凡加橋一
後神橋
於ノ加橋
又子石

阿波中書正次

右是是年上徳園大多重ノ城今邑邑ニ有石ヲ橋ニテ相列

新井右近守政矩

中田重ノ城此地又石ヲ橋

右是是年平定後出立之者ノ城今邑邑ニ有石見出神和野ノ城

今邑邑見之ニ有石ヲ橋凡加橋

古波山城守重義

右是是年徳州古子郡東地一有石ヲ橋ニテ相列古子郡ノ城
此地ニ有石橋凡加橋ニ云後ヲ以テ子郡ノ城ヲ改メ橋力シノ

給

比房又重重

重重左内

長地内重重

多利尾久八重

右是是年重重

日本水正次

右是是年以別之於テ東地ニ子石加彌セウレ

中納言右通正次
海防軍正次

右是是年左列柳川ノ城ニトナリ食邑二万石ヲ領ス

加彌一是 公ノ 左命ニ後テナリ

生馬ノ通勇力男
井上計政正統

右是 左命ニヨツテ是年廿九ノ人ニ列ス

高口松澤忠房

右是是年世襲官ノ由トナリ

高口松澤忠房

右是是年大進出右列トナリ

坂本平作左衛門

右是是年足利氏ノ臣トナリ

古井基吉正次

右是是年 命ニ依テ名ヲ左之由ト改ムカキ南無古井

ナリ母ノ氏ニ依テ古井ト号ス其ハ之浦ニ在リ正室ノ弟ノ弟
左和之平古井ヲ改メ之浦ト号シ後志願者トシ任ス 沼井

惟宗正忠世是ヲ執メ時ニ世世乃改改正次ニ与ル

池田 常力正次
正次

右是是年 右是是年ニ由ス

阿部正忠正次
後志願者トシ任ス

右と左は年出程若し勤メ合源之る後場ニ 忠秋九歳ヨリ
一 是年 公天皇与仲再興アリ 忠秋公ニ其母

行栢市正東邊

加伏志

本井原邊忠春

右是ヨリ年終ス

東栢丹原邊高知

右と左は年出程若し勤メ合源之る後場ニ

一 是年 若年ノ説士六年必年ノ勤若し後十キ年ニ其

方ヨリ度セラシ場モアリ 沖ノ山形邊邊邊

右と左は年終ス

一 是年 大々傳助在史ノ甚道年入十七一歳

一 是年 富田孫ニ師重師 公ニ其父

一 是年 伏見ノ城ニ年出程若し勤メ合源之る後場ニ

大正志

之本正水正次

河原左邊忠春

右と左は年終ス 其長十二年ヨリ其年ニ

内發地邊邊正

右と左は年終ス 其長十二年ヨリ其年ニ

右名 右命ヲ其ノ旨列山田ノ其ノ旨也又海
急ノ中入以直修習殿ノ中ノ其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也
其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也

左和元年正月十九日

安對馬

去大炊

中上野

酒惟未

右ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也

右ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也

右ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也

左和元年正月十九日

安對馬

去大炊

中上野

酒惟未

板倉修司殿

右ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也
右ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也又其ノ旨也

二月

松平初右衛門

右ハ出帳ヲ揚テ陸テ入國之時ニ

一丈ヲ初右衛門ニ揚ル

二月

朽木牧洲三男

朽木右之衛門

右ニ上ニ公ニ奉仕ス

姓名ニ角ノ楯
沼井左衛門右衛門

十五日

右ニ江戸ノ陸テ入國スルニ至ル

三月

六日

右ニ江戸ノ陸テ入國スルニ至ル

右ニ江戸ノ陸テ入國スルニ至ル

七日

右ニ上州ノ白井食邑ニ至ル

松平大膳右衛門

廿一日

右ニ江戸ノ陸テ入國スルニ至ル

山崎之計政系次

右ニ山田ノ陸テ入國スルニ至ル

四月

十七日

本郷大橋邊ノ社ヲ江戸ノ城面ノ名郭内江家山ニ 沖邊迄運
早ニ依テ付日邊 害アリ 公 沖社系アリ 沖米市

行山と安法市

右ノ社教若クモ昔リ修別ニ修別ヨリ江戸ニ移来シ 公ニ當時ニ

命令有テ田ノ改 大社官ノ宛居修人ニ載タリ其上沖米ノ

事ヲ修メ公ニ事忠志儀カラサル由 沖米市ヲ改メ

元和二年正月 大社官修別田中ニ沖社官アリ付所ニ 沖米市ノ

夜半ニ及ヒテ修 沖社官 沖米市 沖米市 沖米市 沖米市

右安法市沖米市ノ社ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別

右ニ上ノル時ニ公ニ事忠志儀カラサル由 沖米市ヲ改メ

沖米市ノ社ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別

廿一日

修別ノ修別ノ修別

右在年ノ社ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別

常川麻生ニテ子ニ言テ修別

村上園信ノ修別

右在年ノ社ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別ノ修別ニ修別

修別ノ修別ノ修別ノ修別ノ修別ノ修別ノ修別ノ修別

修別ノ修別ノ修別

右ハ横濱トシテ村上ニキキ是ヲ流法ス是ヨリ出キ去歲年
カ在入河津在在是ト云フ其江ノ入ノ力在在是テ夜中ニ教
害者ラレキを教ス云々何入ト云フ事ヲ知ラヌ事也是ヲ今流
スルトイハレ其事分知ナラヌ者也カ子権者出候リニ事也
格柄ニテ付事ヲ果サス事也力死候士ニ事松占ニ事ト云フ事
アリ是ハ云々年々是カ力有ニ依テ事也力死候ニ事ノ事
此節在是カ除ナリ付是候アルニ依テ是カ事ヲ教ス事也
此ルヘキノ名権者事也ヲ推在出スルト云ハレ其流法十キニ
依テ決定スル事ヲ流ス化此ニ事ニ依テ是カ事ヲ教ス事ノ時
例ニ是ル女アリ付女ヲ化此スルノ事ハ河津ヲ教入者大権見
知レルノ由ヲ云フ事也其テ事也力死候人等十歳以上ノ事
テハ入死ヲ被女ニ事セシム事松占ニ事ト云フ事也是ヨリ格入急テノ
推在出女ノ事也此上ノ事フヘキニアラヌト是カ力死候ニ事
是ヨリ是事又事松占ノ事也此上ノ事ニ依テ是カ事ヲ教ス事
是ヨリ是事ニ事テ村上ニ事テ是カ事ニ事又付事ニ事ハ日ノ夜
事也力死候事也是候事也此上ノ事ニ依テ是カ事ニ事テ是カ教
入事分知ナラヌ事也河津格者事力教害スルノ事ハ是事
候ノ事也是力中事也此上ノ事ニ依テ是カ事ヲ流法ス事也
此上ノ事ヲ流ス村上ヨリ格者事ヲ流法ス事也是候ニ事ト云
ハト云フ事ハ決ニ是ニ依テ是カ事ヲ流法ス事也此上ノ事ニ

平公河野権公は彼より先祖ヨリ 公儀ニニコシ百サレ、者
ナリ叶放ニ弟也松トシテ之ヲ對決シテ少ク平ヲ得リ河野を
二人ヲ遣ニ東河野ニカシテ河野ノ弟也力也人等皆河野ヲ
疑フト云へ凡河野毎古人ノ情シタル者ナリ是レ後テ遠ニ河野
河上勝テ理トナル義也各交遊者ニ平有テ利ハ去哉河
西ニカラス在申不平ナルヲ以テ遠ニ東河野ノ 百枚ガ几帳ノ因
戸田兼房ヨリカ子平河野夕凡ニ信テ是ヲ書テ割子トス今ノ因房也
戸田兼房ヨリカ子平河野夕凡ニ信テ是ヲ書テ割子トス今ノ因房也
仲頼トナル者ナリ

河丹波也連宗

在河丹波也連宗ノ城京地ハ万石ヲ儲テ河丹波村上ノ城

食味源九万石領凡 河丹波ノ城也

河丹波也連宗

在河丹波也連宗ノ城京地ハ万石ヲ儲テ河丹波村上ノ城
一内京地七万石ヲ領凡

五月

氷地多文

井上釣也

八日

在河丹波也連宗ノ城京地ハ万石ヲ儲テ河丹波村上ノ城

仲頼目

中上

氷野多文友

井上初江屋

十二日

一 松平孫左衛門忠政年八十二歳

十二日

右 松平孫左衛門忠政

十二日

右 松平孫左衛門忠政

一 松平孫左衛門忠政年八十二歳

右 松平孫左衛門忠政

右 松平孫左衛門忠政

右 松平孫左衛門忠政

右 松平孫左衛門忠政

一 松平孫左衛門忠政年八十二歳

右 松平孫左衛門忠政

右 松平孫左衛門忠政

元和四年六月日

六月

二日

一 諸藩加賀守成卒八十一歳

六日

一 右柳川守信忠卒八十一歳

廿二日

一 直友後法寺正成 直友後法寺正成の子 卒八十一歳

廿四日

右友後法寺正成

林内氏昭久

右友後法寺正成

七月

十八日

一 大徳久在馬 岩波卒八十八歳

八月

二日

一 松平上池谷康忠 上池谷源次男 卒八十八歳

七日

右友後法寺正成

加賀肥後守忠康

甲子ハ

加茂右馬允

中川又左衛

藤河志摩守

森下俊定

庄林隼人

加茂占左衛

加茂平左衛

中村羽監

加茂修良

榊庵

乙子ハ

加茂英仍

丹波

加茂壽林

中川園助

和田信中

志摩介男

五日丹波

右ノ輩等ニ付二人共ニ江戸ニ来リテ是ヨリ此日

公ノ命ヲ奉テ福井推由路邊母力由ニ於テ執事等ハ入等

列會ニテ去河津ヲ少ク北後由ノ授受

各信臣等ノ由之

右等オモテ列ス

八日 比日モ又忠臣ノ名ニ於テ忠臣ノ名ハ古ノ時ヨリ少クナリ
惟キ其ノ名ハ未ダ集リテ是ヨリ評儀スルト云ハ臣甲乙ヲ決シ
難シモ之後テ其評儀ノ事ハ何ヲ祀シテ 名覽ニ入ル時ニ

十日 如ク此後モ忠臣及ヒトモ古ノ時ヨリ 評儀中ニ
臣シテ名也 城ノ 名ハツ毎信臣市ニ而シテ 臣シテ被
カ評儀ノ事ヲ聞ヒ然ラテ後大慶ニ 市ノ事ヲ其評儀
ノ内ヲ少シク

相模原六節

か多上地舟正純

古井大徳正利勝

長谷村正忠

井原掃部正忠

長谷村正忠

比日其ノ名ハ未ダ集リテ是ヨリ評儀スルト云ハ臣甲乙ヲ決シ
難シモ之後テ其評儀ノ事ハ何ヲ祀シテ 名覽ニ入ル時ニ
及ヒ古ノ時ヨリ 評儀中ニ 臣シテ被
カ評儀ノ事ヲ聞ヒ然ラテ後大慶ニ 市ノ事ヲ其評儀
ノ内ヲ少シク
古井大徳正利勝
長谷村正忠
井原掃部正忠
長谷村正忠
比日其ノ名ハ未ダ集リテ是ヨリ評儀スルト云ハ臣甲乙ヲ決シ
難シモ之後テ其評儀ノ事ハ何ヲ祀シテ 名覽ニ入ル時ニ
及ヒ古ノ時ヨリ 評儀中ニ 臣シテ被
カ評儀ノ事ヲ聞ヒ然ラテ後大慶ニ 市ノ事ヲ其評儀
ノ内ヲ少シク

忠彦カ介男タリ故ニ忠彦丹波ト因之ノ思ヒ乙方ニ有リト
云ハト七年女シテ出ノ改年ヲ辨ス是ニ後テ猶日然ハタリ
甲方又云ク丹波守初ニ大松ニ被テ遺リ初ハ運送ノ用ナリト
云ハ巨室布改年大坂拜礼ノ時云松トシテ是ヲ大坂ニ合ワ
セシノタノナリ又津友家女ハ秀形乳母ノ子ナリ然レ家女
此後出ニ生リ遺レ被シテ大坂ニ産シ是内通ノ為メナリ又松は
法正帝此後ヨリ大坂ニ君ヒ登リ然テ治リ奉リテ此後ノ法
士ニ遺テ云ク大坂ノ一城ニ秀形大ニ居リテ此後此城ヲ卷ク
敗カス故ニ 在在云ハ東條ニ條ノ城ニ連テ給ヒ
秀忠公ハ早ク引テ依居ニ御座城アリ 故若ノ敗レ久シ

カレマシキノ由ヲ若レ丹波守ヨリテ事夕帳ノ國中ノ法士
大ニ疑フ付時其ノ人等 御座ヲ伺ヒ頻リニ法正又丹波守
父ノ事ヲ辨テ之ニアタハス其後法正帝ハ云フ所甲方ト夫
烟十三右子元輝卷ホ被ク河内是ニ後テ御座タリ
公入御アリ列居ノ為メ皆退カス

十一日

横江法正帝
橋本掃部卿
因 佐右史

右三人物罷セ之レと條乙方ノ事等而クニ記流セ之レ忠彦
年六ニテ未夕改年ヲ辨ル事ナキカ故ニ史料難シ是ニ

後ヲ敬養スルニ任事ヲ除カシテ甲子右子元等ヲシテ元ノ
世ノ世改メテ少カシメテ

九月

十一日

右子元等ノ世改メテ少カシメテ

ト少カシメテ時三十二歳
朽木桂樹
後子元等ノ世改メテ

十二日

一 大内因体心恒名全名 卒八七十二歳

十九日

一 松浦直房恒名全名 卒八十二歳

廿八日

一 治命恒名全名 恒名全名 卒八十二歳

恒名全名 卒八十二歳
恒名全名 卒八十二歳
恒名全名 卒八十二歳

左和臣年九月廿八日

五對

云々

如上

酒惟

恒名全名
恒名全名

十月

十二日

一 松平肥前守平兵衛 仰承廿九日付連判ノ旨牒
 以テ流大各ニ施シ奉ス
 名高少入以松平肥前守平兵衛ノ旨知テ之ニ干万名ニ下石
 中少以是於江戸松田物老等ノ旨通テ之旨上被去也奉
 上流山内ノ形等々此等由之少付作也

十月十二日

伊香 松右

本對

公大

酒作

一 松平信長ノ廣度 此ノ名氏松平信長ノ旨又志廣度ノ旨奉又七拾三歳

十一月

一 公就公首面ノ旨奉奉令社務初ノ旨沖政ノ旨ナリ

官取西ノ旨万子

少川 安平

流ノ旨下馬

右之旨月在留ノ旨礼トシテ 城ニ先リ 公ニ先ス

十二月

十二日

右岸左多東西次
波浦志摩守信久

右より遠く至る作ノ郡津所村ニ於テ岸地七百石余ヲ
獨ル

信濃吉田守力男
奥友織物屋主

右より公ニ指スル又區成力佐地一丁石内信州川中浦又石石
主直ニ獨リ去修ノ又ノ右ハ所並修也能受ニ獨ル力佐地
川中浦又石石ヲ惣ニテ田別修系修ノ
内ヲ獨ル地多敷石ノ也

十八日

一 右多々區正負年入六十一歳

十九日

二 行二あり

右岸吉田信

右より秋ノ是ノ後テ 中内書ヲ獨ル

信濃吉田守力男
南村守直

廿一日

右ハ溪ニ後下ニ叙ニ山城守ニ任ス

因幡守康重力男
松平康政

廿七日

右ハ溪ニ後下ニ叙ニ左邊守ニ任ス

右邊守久二男
河津忠貞

廿八日

右ハ溪ニ後下ニ叙ニ右子路ニ任ス

溪地田守直
大久保守直

牧野内通江依成

在皇元年領ノ士引テ依見ノ也

去言既卷成力也

大久保忠定

治正師在元下是

在皇元年領ノ士引テ依見ノ也

因八年也書院

在武實編卷中又

在皇元年領ノ士引テ依見ノ也

五月

朔日 江戸ノ城藏且ノ智候例ノ如ク

七日

一 中馬修旅書在安年又

十日

一 去後山城守之義行年久也

元和六年二月十日

二月

十八日

右大臣藤原良房

知川玄若以真元

右大臣スニ十七歳ノ子興忠^{後醍醐天皇}位ス^{仁久}又其元ノ由留^{仁久}ヲ建

井之原病忠

右大臣月越後^{仁久}由^{仁久}田ノ城守^{仁久}此十有石ヲ惣^{仁久}シテ佐州松城

ヲ賜^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也

松平清康

松平清康

右大臣田ノ城守^{仁久}也二十石ヲ賜^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也

松平清康

右大臣^{仁久}命有テ田^{仁久}海^{仁久}守^{仁久}ト^{仁久}世^{仁久}仕^{仁久}ス^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也

弱^{仁久}年^{仁久}ニ^{仁久}シ^{仁久}テ^{仁久}大^{仁久}源^{仁久}ヲ^{仁久}賜^{仁久}玉^{仁久}次^{仁久}ヲ^{仁久}毎^{仁久}城^{仁久}セ^{仁久}ス^{仁久}仁^{仁久}成^{仁久}を^{仁久}成^{仁久}ノ^{仁久}人^{仁久}タリ

忠^{仁久}忠^{仁久}ノ^{仁久}割^{仁久}テ^{仁久}子^{仁久}田^{仁久}ニ^{仁久}外^{仁久}キ^{仁久}玉^{仁久}幣^{仁久}ヲ^{仁久}許^{仁久}ス^{仁久}ヘ^{仁久}シ^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也

且^{仁久}ト^{仁久}ニ^{仁久}フ^{仁久}仁^{仁久}程^{仁久}養^{仁久}ト^{仁久}也^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也

凡^{仁久}此^{仁久}也 御^{仁久}名^{仁久}ヲ^{仁久}蒙^{仁久}凡^{仁久}此^{仁久}也 後^{仁久}醍^{仁久}醐^{仁久}天皇^{仁久}井^{仁久}川^{仁久}ニ^{仁久}シ^{仁久}イ^{仁久}テ^{仁久}食^{仁久}邑^{仁久}一^{仁久}万

石^{仁久}ノ^{仁久}仁^{仁久}成^{仁久}ニ^{仁久}賜^{仁久}ハ^{仁久}リ^{仁久}忠^{仁久}忠^{仁久}ニ^{仁久}賜^{仁久}テ^{仁久}子^{仁久}田^{仁久}ニ^{仁久}アリ

松平清康

右大臣上^{仁久}忠^{仁久}春^{仁久}公^{仁久}後^{仁久}醍^{仁久}醐^{仁久}天皇^{仁久}入^{仁久}御^{仁久}也

後^{仁久}醍^{仁久}醐^{仁久}天皇^{仁久}上^{仁久}院^{仁久}有^{仁久}仁^{仁久}成^{仁久}ノ^{仁久}賜^{仁久}モ^{仁久}仁^{仁久}成^{仁久}多^{仁久}シ

十子英傳者甚多 後世真古 二沖腰物也 取 獨几

巳月

本條 二男
松平源右衛門

十六日

右ハ始テ 公ニ指入

城守 定季男

松田 修 定季 俊季

二十日

右ニ 公ノ 治令ヲ 奉テ 河内 公ニ 改ム

六月

八日

一 公 沖上 源トシテ 江戸ノ 城 沖首 定アリ

本多 清 定 定 定

右ニ 由 史 公ニ 指入

十六日

是

一 屋敷ノ 内ニ 所入 氏 全 自 在 氏 年 一 公 傳 出 氏 本 在 二 日 方

沖 檢 使 氏 右ニ 者 在 二 史 以 屋 敷 氏 上 公 右 上 公 也

六月 十六日

一 是月 公 沖 入 治

六月

福徳左衛門正則

冬談

右ノ御別法有ニ後テ冬談後後ニ列シ没収セラルレ別
印申渡ニ漏セラル志子海後志務因正ノ記流四年春海死
叶時ニ依見ニ御史城アリ

久世正希彦直

坂本守而彦勝

右ノ御使トシテ江戸ニ移カシム時ニ 命有テ曰汝等江戸
主テ正則ニ御名ヲ告クハニ若シ正則ニ是後ニ及ハク

松平小次郎信忠次

色屋左兵衛甚次

奥平九八郎

中上源次郎公俊

右等ノ名ヲ登シテ是ヲ誅伐スヘシ 御謀畧ノ 御書
ニ通シ以テノ事カラ自カラ久世坂本ニ御凡且ツ其書ヲ持メ
江戸ニ移入福徳左衛門正則ニ御凡其書ノ証

今ノ夜ノ御書ヲ持テ 本年ノ冬月 御法度ノ御書ニ
忠臣ノ御書ニ被知レテ被知レテ名後所所江謀畧ノ凡其
意ニ被知レテ由也 仍カレ御書ニ上ニ計取除キ上ニ以

沼井雅未
世

沼井雅未

一 公ノ 命ヲ 奉リ 沼井 甚重 本多 正純 出井 利勝
板倉 勝重 安藤 重信等

沼井雅未

板倉勝重

右 数人ニ 之ニ 因テ 條ノ 書付 之 也

是

一 左 邊ノ 人 中 沼井 甚重 本多 正純 本多 正信 板倉 勝重
等ノ 事

一 左 邊ノ 人 中 沼井 甚重 本多 正純 本多 正信 板倉 勝重

一 合 渡 米 清 土 左 邊ノ 人 中 沼井 甚重 本多 正純 本多 正信 板倉 勝重

一 合 渡 米 清 土 左 邊ノ 人 中 沼井 甚重 本多 正純 本多 正信 板倉 勝重

六月九日

安藤重信

板倉勝重

出井利勝

本多正純

沼井雅未

沼井雅未

板倉勝重

之世臣所廣宣

坂初平所廣略

右ハ高使トシテ江戸ニ去テ世將ヲ集メノ 左命ノ外ヨ
出凡是ニ後テ收捕長崎ノ民房等取二人福徳在是也正則カ
江戸ノ宅（宅名山ノ）部中 其書正則ニ後シテ 沖名ヨ
名テ云リ 公使ヲ置スシテ唐徳ノ城郭ニ名辭ヲ集キ
城地ヲホリ其郭内ヲ鑑フ事 大津若ノ 沖邊法ヲ
名ニ其器道トカクニ早ク二所ヲ將テ城ヲ後スヘキ也
又江戸ニテリ唐徳ノ海陸取石等遠近ルニシテトモ
近シ難シ書籍ヲ以テ唐徳ノ城ヲ鑑ケ後サニコトヲ城ヲ

中ニ其入等ヲ在ハスヘキノ名也使是ヲ後凡正則其後
ニ及ハス 命ニ後ヒ由テ選キ城ヲ後ヘキノ名ヲトモ書ヲ
必テ其人等ニ也ハス江戸沖邊至 若ノ世將等也使ト
右城ニテ正則若是後ノアアハ速是ヲ傳代スヘシト
名ヲ集メテ正則カ宅地ヲ圖ムト云ヘ正則 命ニ後ニ
其後ナキニ後テ其年ニ及ハス正則改易ノ事ニ後テ

右左ノヨリ

徳ノ基ヲ相南

海城系也後ニ

忠長主ヨリ

名多形七師

右ヲ沖邊トシテ江戸ヲ登ニ使見ニシモ其ノ時ニ使見ニ
於テ基在是ノ相南 左命ニ後テ徳江ヲ改テ之城ト号ス

水井右左衛門

安房對馬重臣

右と左海邊二列ヲ法也 上使トシテ伏見ヲ奪之
舊列ニ却ク

如安房右衛門

毛利伊左衛門

右と左海邊海邊支園ノ地利ヲ知ルニ法テ是勝ニ至信ニ是
海ノルニ是外南海ノ端法樹ヲ右向ケルニ時ニ 御朱
印ヲ法樹ニ掲ル

條ノ

一 今安房右衛門ノ人教ノ事也書付トシテ是信ニ是外

法事 上使ノ使若事トシテ知ルニ是外ノ事也

檢書事

一 檢ニ名ニ付採竹木但於小庭具々不及汝法樹古木也院

本ノ事ニ疎ク事

一 噴吐口海邊合信山早若方遠祀ノ事トシテ是外

乃一房檢事トシテ事トシテ是外

一 今安房右衛門ノ人教ノ事也書付トシテ是信ニ是外

事トシテ但之故法トシテ是外

一 百姓男女ノ事也書付トシテ是信ニ是外

三十五
右
左

右
左

左
右

右
左

右
左

右
左

右
左

右
左

右
左

右
左

十九日

一 川井平右衛門左衛門

右
左

右
左

右
左

右
左

中川

渡邊

右
左

川井

安房對馬島之儀

右安房島嶼二列ノ檢定書ヲ得ル

一 安房島嶼ノ詳果々島嶼在島ノ方更ニ因島嶼ノ沖流

中村ノ別物ヲ自島嶼別産物ト判別我東洋産物

也ト云

一 二東城池田浦中島山嶺中非島島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

流流度ノ全遠近ノ極點ノ中流中

一 廣徳島ノ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

一 松平島ノ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

更ニ島嶼ノ方

右ノ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

更ニ島嶼ノ方更ニ島嶼ノ方

六月廿日

安房大坂路

利格

安房上沖母

正地

安房橋東路

安房

蘇州唐德城信江之流傳中丸 涌井之國大柳

如多德及柳

以本之丸之九之芸之書 如多德及柳

之

一 流傳其子之流道其河之地之流其根其流其子之流其

時自流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

如之書

一 河中流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

以之入右流之上之書

一 名流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

一 流中流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

一 流中流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

五月廿二日

涌井大德院 利勝

如多上德母 正純

涌井惟宗 甚世

涌井對子之書

涌井右直之書

涌井對子之書

涌井右直之書

右流中流其子之流其河之地之流其根其流其子之流其

名ヲ福徳カ人等ニ云ヒ也又時ニ正別カ徒士

去村又右也

大橋茂右衛門

右様年百有八、名漢地ヲ移年シ、隠戸ノ瀬戸ニ^{唐地ヨリ}必程七里^カ向リ
上使、安房ノ正信、水井、虫宿、此命ヲ演ル、右村大橋、公テ云ク
名命被テソムクヘカラス、依リト云、正信、唐地ノ城ヲ也、信年
等、城ヲ退散スヘキノ名、正別カ者ヲ一覽セスニハ、名命トニ
遊ヒカクキ、由ツヤスノ名ヲ云フ、あ復少テ正別カ武別カ人ニ
上テ、是ニ教、石里ノ海、陸ヲヘタリ、今、付、名ヲ云ヒ也、ハスト云、正
信ニ、通、難シ、幸ニ、正別カ、福子、信、信、也、忠、信、弟、所、速、仁、也、信、

名入、江戸ヨリ、正、信、ハ、正、ナ、リ、キ、丁、百、有、八、ナ、リ、忠、信、ニ、是、ヨ、云、ヒ
也、サ、ハ、彼、カ、年、有、唐、徳、ニ、此、ル、ヘ、キ、丁、後、カ、ラ、シ、大、橋、右、村、是、ヲ
少、テ、云、ク、信、信、也、忠、信、ハ、最、ト、正、別、カ、福、子、タ、リ、ト、云、正、信、夕、云、
在、信、ヲ、也、ス、是、信、テ、每、海、濱、二、列、ハ、今、正、別、カ、信、是、ニ、シ、テ
忠、信、イ、マ、タ、是、ヲ、信、名、セ、ス、ニ、カ、ル、ニ、其、信、ヨ、サ、シ、ヲ、キ、忠、信、カ
名、ヲ、以、テ、院、文、十、ニ、有、也、上、使、信、入、ヘ、キ、信、入、ト、云、テ、唐、地
ノ、城、ニ、指、籠、リ、防、城、ヲ、造、ケ、ニ、ト、健、ス、城、ヲ、志、ル、名、士、等、信、テ
正、信、年、入、付

梶田かよ

大崎玄若

二東城

新ノ城

津邊ノ城

福徳丹後

三吉ノ城

尾野置物

赤糸ノ城

長尾隼人

右ノ邑ヲ申ル

東邊ノ領土及ヒ此ノ集ル諸將等既ニ去リ及ツシテ
城ヲ攻メント欲ス唐徳ノ城ヲ申ル弱ク多ク皆城圍ムコト
ヲキク是ヲ候シテ候者ヲクバリ候ヲ亦ハ裁ヘ城外ニ
北ケル七十三人

牧村右衛門

赤糸修良

右二人正則カノ年書ヲ指シテ唐徳ニ去リ及邊ノ領土及ヒ
等依見ヨリノ御下知リ申テ牧村赤糸ヲ二人城ニ入ル城ニ籠
新ノ法士正則カノ年書ヲ指見スルニ其後備後及備前二列
城ニ入ル其後及備前二列ノ法城及備後及備前二列ノ
ナク城マシテ又備前二列ノ法城及備後及備前二列ノ
備前スルノ二十日余二列ノヲ法城ニ入リテ備後及備前

廿四日

右ノ依見ニ於テ年入ニ十二歳

白鹿野在卷二男
松平守直在卷二男

七月

二日

福徳左衛門

右様ハ漆樽ニ配流セラル、ノ名ニテ彼地ニ在テ食邑田万石石
 堀凡雨ニ其所ヲ始セラシ越後後法二列ニ在テ食源ノ負致
 漆樽ノコトク堀ハリ配所ヲ法列河津橋ニアラタメラレ時ニ
 律書ヲ區別ニ堀凡
 一筆々々原上ハ漆樽とカを造修シる福井之南女師牧師
 横河右左衛門知所不道中漆樽ノ一石万石ノ石ノ下
 ノ名ニテ福井ノ東麓ニ在リ越後後法二列ニ在テ食源ノ負致
 志摩守治成ノ人ノ下ニ在リ

七月二日

古井大権臣 利勝

中多上地母 正純

福井惟永 忠世

福徳左衛門

二日

是年西ノ下宮ニ在テ 福徳丹ルノ在

園書傳

一 武具ノ下ノ外法及具器地ニ在テ其載ハ十一年

一 竹木一切不ニ著採年

一 左様中ノ在ハ十一年

一 種信ノ下ノ年 爲ノ下ノ年 其載信ノ法ノ下ノ年

おろしハ近海中へ入る

一 船柄ハ一ノハの二孔中へ入る

一 舟を分ち舟破中へ入る

一 舟を分ち二回花二舟破中へ入る

一 舟を分ち一舟破中へ入る

一 舟を分ち切米は中へ入る

切米は中へ入る

右二右もけを也

左和六年七月廿一日

徳川幕府
御用
御用

右年入八十六歳時ニ海軍軍令出久
阿ラタム 舟師ニアリ候ヲ
獨ニ陸列ニ候也

在二日

海軍正則

右ハ北洲ノ陸地ヲ掃テラレニ候テ重ク其書ヲ獨ニ
急度ノ入ル先交上 舟師御用ニ急度ノ内
候列川中候ニ方右の上候了云々右ノ上ノ
市川岸に是ノ上候也云々以来ニ舟師御用ニ
法ハ一ノ海也

七月廿二日

右井之候隊 利成

板倉修重 御用

か多上津妙正統

酒井雅未正統

福徳乃惠堂夏

廿八日

各於此所正之

大久保正所正之

右云 今命ヲ守テ此後日向東出テ塔権兼山名ヲ正シム
カント後又山名ヲ正シテ此後其カウ入其通相良ト云
長久力所正之
兼中ノ彼山中
那波久吉而

目録ノ如

因左道

右ニ夕マハルニ入奉 毎午使ヲ以彼所正之
大那若天下ノ一統ノ時又 沖兼中ノ爲テ山中ニ奉テナリ
於テ那波洋正ト云フ其アリ山中ニ據テ正シテ其志ヲ正シ
久吉而ヲ教ハ是ニ依テ山中大ニ礼ル相良長云長云其
屢伏見ニ酒正又轉奉其ノ入等是ヲ 名正正之
等ヲ召シテ彼山中正之其志ヲ正シ其志ヲ正シ
正之其志ヲ正シ其志ヲ正シ其志ヲ正シ其志ヲ正シ
正之其志ヲ正シ其志ヲ正シ其志ヲ正シ其志ヲ正シ其志ヲ正シ



ニテ是ヲ缺ク公是ヨ 名譽有テ去井大快既利勝ニ

命有テロリ以日ノ浮休有ナラズ正之彼如ノ地利ヲ知テ

所ヲ沖洋意アルハナリ 沖名ナリ是ニ依テ

名は正之而正之 名は正之而正之

名は正之而正之 名は正之而正之

右ヲ由後ニ之アル 命有テ曰ク由後彼地ニ

力有テ用スニ若多勢ヲ疑スナリ有テ是ヲ

肥後藩軍ニ告ヘテ其解ヲ後日向ノ

指揮スヘキノ旨 右令ヲ書ル



